

新年を迎えて

しずない農業協同組合代表理事組合長 片岡 禹雄



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、ご家族とともにご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

政権交代後の今日の経済・社会情勢は、安部首相の打ち出した日本経済再生に向けた大胆な金融緩和・大規模な財政出動・産業競争力の強化の「3本の矢」を掲げた「アベノミクス戦略」は、これまでのところ円高是正、株価上昇などで一定の成果を出しています。

ただ世界規模での人口増加、干ばつなどによる穀物の不作など国際市場での価格動向が不透明な中で、円高により輸入品価格が上昇

していることから飼肥料・原油などの生産資材や食料品価格が高騰し、中小企業や農業経営、国民生活を圧迫しています。

国内の農業は、少子高齢化による急速な人口減少期を迎え、農家戸数の減少で中山間地域をはじめとする地方社会の経営基盤は弱体化し、多面的機能を有する農村社会が崩壊しかねない危機的状况にあります。

このため、国内の農業産出額、戸別農業所得は長期的に減少傾向にあります。

更にTPP交渉参加は、関税撤廃で国内農業に大きな打撃を与え、規制緩和などを通じて、国の姿を変えかねない非常に危険な側面を持つています。

昨年11月の交渉参加12カ国間の協議では、農産物の重要品目をはじめ知的財産や医薬品、投資など主要な部分で対立点が残り、年内妥結は見送られたものの予断を許さない状況が続いています。

昨年暮れの政府は、TPP参加

対策として、安部政権の成長戦略である「攻めの農林水産業」を柱に「農業・農村所得倍増」の目標を掲げ、六次産業化を軸に担い手への農地集積や輸出促進を目指すとしています。

また、経営所得安定対策や米の生産調整の見直しなど新たな農政改革を発表したが、全容が見えない中で、生産現場では不安が広まっています。

今後は、生産者が意欲を持って取り組めるような仕組みを確立していくことが重要となって参ります。

昨年の地域農業は、年明け早々から近年にない暴風に見舞われ、住宅・厩舎などの建物及び施設ハウスに大きな被害を受けました。

また、その後の度重なる台風、長雨に加え、秋の収穫期以降の11月、12月に至っても突風が吹き荒れたことから新たな被害の発生が心配されたところでありました。

幸いにして、収穫期の天候も比較的安定に推移したことから各作物とも総じて豊穰の秋を迎えることができました。

しかしながら改めて地球規模での温暖化現象が進んでいることを

実感させられた一年でありました。

地域の基幹作目の取り扱いについては、各作物とも厳しい環境下の中、個々での創意工夫と更に各振興会を中心に「安全・安心・良品質」確保に取り組んできた結果、全体の取り扱いで当初計画を大幅に上回る成果となりました。各位のご苦労に敬意を申し上げます。

また、昨年は被害ハウスの復旧に多大なご協力を頂きました。若菜青年部の皆様には、改めて感謝とお礼を申し上げます。

次に各作物目について申し述べます。

水稲は、全道作況指数105、日高104の3年連続の豊作で計画対比2180万円増の取り扱いとなりました。

ミニトマトを中心とした青果は、北日本（東北・北海道）の長雨、8月の猛暑で収量減と消費低迷が心配されたところですが、ブランド品として定着のミニトマト「太陽の瞳」については、春先の出荷期以降も高値を維持できたことから前年の7億1000万円を上回る7億5000万円と過去最高の取り扱いとなりました。

酪農は、前年比で乳価(kg単価)